

栽培種目：ナス

露地栽培でナスの良品質・多量・長期間収穫を目指す

チーム名：茄子与一

氏名：三浦充雄

〈要約〉

夏野菜定番のナス。ビギナーでも割と簡単に栽培できるが、実際は、病虫害の被害も多く良質の実を長期間収穫することは容易ではない。今回、実生の安い苗を購入し、事前に病気や害虫被害を想定し栽培方法を工夫して栽培を開始した。途中、予想外の病気が発生したり、完遂間近で大型台風に見舞われテーマ及び課題をクリアすることは出来なかったが近づくことは出来たと思う。

【採用した工夫】

- ① 高畝：排水性、風通し、水媒伝染性病
気予防(根腐れ疫病)
- ② 強い剪定と根切り
- ③ マルチング実施：保水、排水性
- ④ 施肥：植物性堆肥、米糠、籾殻燻炭、
苦土石灰、化成肥料
- ⑤ 病気予防／害虫駆除での農薬使用
病気：ダコニール 1000
ハダニ駆除：ダニ太郎
アザミウマ、カメムシ駆除：ダントツ
土中害虫駆除：ダイアジノン 5

1. 初めに

これまで自家菜園（20年以上運営）では、時々ナスの栽培を行ってきたが、黒光りした品質の良いナスの実を継続収穫できたのはほんの最初の数年のみで、以降時々

栽培するも、ウイルス病、半身萎凋病、根腐れ疫病の発生や害虫（ハダニ、アブラムシ、カメムシ、アザミウマ）の食害もあり、途中で枯死したり、変色したり奇形の実が混じるなどまともな実を多数収穫することはなかった。最近では、土壌が汚染されていることも自覚していたが会の圃場運営も忙しく、自家菜園維持に熱が入らずにいたが、今回は栽培フェスタの場を借りて、病虫害が当然発生する前提で対策／工夫をして栽培することにした。

2. 方法

1) 用地の準備

用地(菜園中央に南北 1.5m×東西 0.7mの区画)は、施肥・耕起後に高さ 20 cm土を盛り上げ表面を平らにして全面マルチ掛けした。【施肥】要約の④と⑤のダイアジノン 5をそれぞれ適量使用。今回米糠を少量他の肥料と混ぜて使用したが、これは善玉の土壌菌を増やす効果があるとの友人の推奨から。燻炭は土質改善と保水性、通気性、排水性の効果を期待した。

2) 苗の植付

5本の実生苗を等間隔空けて定植した。接ぎ木苗がベターであるのは承知の上で病気が出やすく安価であることを理由に実生苗を使い続けている。

【苗】千両2号(@78円)×5

抵抗性、耐病性なし。

「土壌病害回避と収量アップのため接ぎ木栽培を原則とする」(サカタHPより)

【使用薬剤】要約⑤参照。

これまでは害虫対策として主にハーブやソルゴーなどのコンパニオンプランツ、バンカープランツの混植で害虫予防を行ってきた。それなりに効果はあったが、薬剤の選び方も学んだのでダントツ等新しい薬品を選択して使用することにした。土中害虫に関しては従来よりダイアジノン5を使用。

3) 強い剪定と根切り

秋ナスをとるためには一般的に7月下旬の剪定が必要だが、6月中旬には青枯れ病が発生し1本が枯死したため、他にも伝染するはずと固唾をのんで見守るうち7月に入ると残り4本の下葉が黄変するなど青枯れ病にはない症状が発生した。この期間の収穫ナスには奇形が見られ葉にも穴があく等ハダニ、オンブバッタ、アザミウマの発生も見られたため、ダニ太郎1000倍液、ダントツ1000倍液を散布した。

3. 結果

1) 栽培経過

5月11日 千両2号ナス苗5本購入。

ひよろひよろしたひ弱な苗のため液肥を与えダコニール散布等定植前の養生実施。

5月19日 ナス苗5本定植。

6月11日 青枯れ病発生：ナス1株が突然グッタリして枯れる→症状と図鑑から青枯れ病と判断した(写真)。

「青枯れ病は土壌伝染性の細菌病で水分過多、根痛み、中性土壌で起こりやすい。」
(出典：日本植物病害大辞典)

6月12日～7月3日

青枯れ病が他株に伝染することもなくこの期間に4株から実を38本収穫。

7月4日～7月14日

4株とも下葉より黄変して元気なし(写真)。てっきり半枯れ病や半身萎凋病発生を疑い全滅を覚悟した。この期間の実は曲がったり色も悪かった。実10本収穫。

7月15日～7月21日

枯死もせず相変わらず品質悪い実をつけ7個を収穫。連続して枯死しないことから上記病気の疑いが晴れたが、中葉、上葉が穴だらけでハダニ、アザミウマ、オンブバッタの食害酷くダニ太郎、ダントツ水溶液を散布した。

7月22日～8月24日

4株とも生き残り葉も生き生きしてきた。株全体が一回り大きくなり立派な実78本収穫。下葉から黄変したケースは結局マグネシウム不足による生理病だったと推定。

8月25日 強剪定、根切り、施肥実施

根切りは株回り20cm離して円周状に30cm深さでスコップを入れた。施肥は要約の④の記述通り、苦土石灰は多めとした。

9月9日 台風15号襲来、5株共被害受けたが復元に努め持ち直した。

9月20日～10月13日 根切り後36本の立派なナス収穫。12日に台風19号襲来、13日に4株共強風で引き倒され復元不可となり栽培実験強制終了。

4. 考察

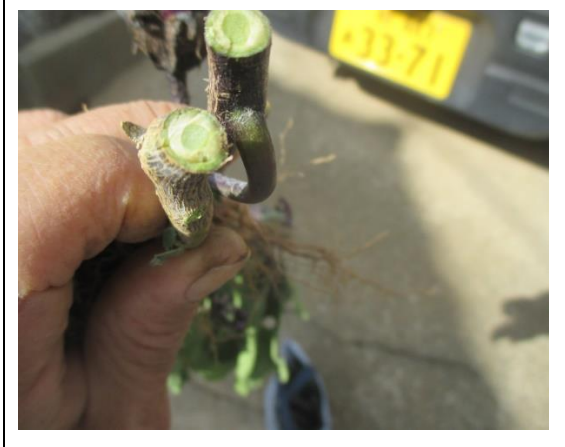
今回は目標/テーマの完遂は台風19号により阻まれ結果を出せなかったが、着花も良く19号が来なければ11月中旬まで収

穫も可能だった筈と考えている。途中病気や虫害で品質の悪い実もあったが、あのヒョロヒョロの株が病気に堪えよく頑張ったと感心する。

参考文献：日本植物病害大辞典
ナスの青枯れ病発生



導管の褐変あり



ナスの土壌伝染性病気？→実は生理障害



ナスの収穫続き着花もなくなった。



8月25日強剪定実施(通常より1か月遅れ)

同時に根切り&施肥を行う。



根切り後約1か月後から再収穫開始

10月12日の台風19号襲来まで続いた。



(完)